



令和4年2月3日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部  
総務広報課長

### 宮崎大学発ベンチャー「株式会社 Smolt」の 「科学技術イノベーション (STI) for SDGs」アワード「科学技術振興機構理事長賞」受賞報告について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は、特色ある研究の推進と産学・地域連携により、大学の研究成果を活用した新事業創出及び大学発ベンチャー企業の創出・支援等を進めており、現在 10 社を大学発ベンチャー企業として認定しております。

この度、本学として初の学生ベンチャーである「株式会社 Smolt」（代表取締役 上野 賢／宮崎大学大学院農学工学総合研究科1年）と本学農学部 内田 勝久教授が「STI for SDGs」アワードにおいて「科学技術振興機構理事長賞」を受賞したことについて、下記のとおり学長報告しますのでお知らせいたします。

なお、同社の活動状況及びその他受賞報告も予定しております。

つきましては、当日取材していただき、記事として取り上げていただきますようお願いいたします。

敬具

#### 記

日時 令和4年2月8日（火）10時30分～11時30分  
場所 宮崎大学木花キャンパス 事務局棟3階 会議室  
出席者 鮫島 浩（宮崎大学長）  
國武 久登（宮崎大学農学部長）  
内田 勝久（宮崎大学農学部 教授／株式会社 Smolt 取締役）  
土屋 有（宮崎大学地域資源創成学部 准教授／株式会社 Smolt 取締役）  
上野 賢（株式会社 Smolt 代表取締役／宮崎大学大学院農学工学総合研究科1年）  
淡野 公一（宮崎大学副学長（産学・地域連携担当）、産学・地域連携センター長）

内容 「STI for SDGs」アワード「科学技術振興機構理事長賞」の受賞について  
株式会社 Smolt 活動状況およびその他受賞報告について

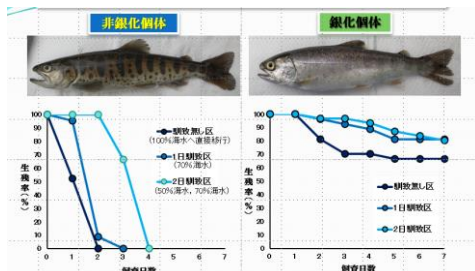
「STI for SDGs」アワードとは、科学技術振興機構（JST）が実施する 科学技術イノベーション（STI）を用いて社会課題を解決することにより SDGs の達成を目指す特に優れた取組を表彰する制度です。

#### <受賞理由（一部抜粋）>

本取り組みは、天然物を保全し養殖へシフトする世界的な流れに沿った新しい息吹を感じられます。地域に根ざした独自の研究を事業化し、地元の生産者ともしっかりとコミュニケーションをとりながら、パートナーシップによって成果を出しています。加えて、ビジネス戦略を明確にしている点、さらに、暑さに強い種苗の開発は、気候変動による海水温の上昇への対策としても期待できる点が包摂性、展開性や STI の活用として、高く評価されました。SDGs 目標 14（水産資源の保全）、目標 13（高変動に関する目標）の達成につながる活動である。

- 1 お問い合わせ先  
宮崎大学研究国際部産学・地域連携課（山崎）  
TEL：0985-58-7951 FAX：0985-58-7793  
Mail：sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp
- 2 発信元  
宮崎大学企画総務部総務広報課広報係  
TEL：0985-58-7114 FAX：0985-58-2886

### 1 農学部内田研究室の成果が基盤



宮崎の淡水と海水環境を利用したサクラマスの循環養殖システムを長年の学術研究に基づき構築。生産現場で再現できるよう地域の水産業者と実地試験をするなど早くから事業化を見据えた取り組みを展開。

### 2 宮大ビジコンがきっかけで創業



第1回宮崎大学  
ビジネスプランコンテスト

2016年

宮大ビジコン出場

▼

事業計画の改善

▼

2019年

Smoltを創業

### 3 社会実装・事業化の伴走支援



ベンチャーキャピタル及び個人投資家から資金調達  
取締役 農学部 内田教授  
地域学部 土屋准教授

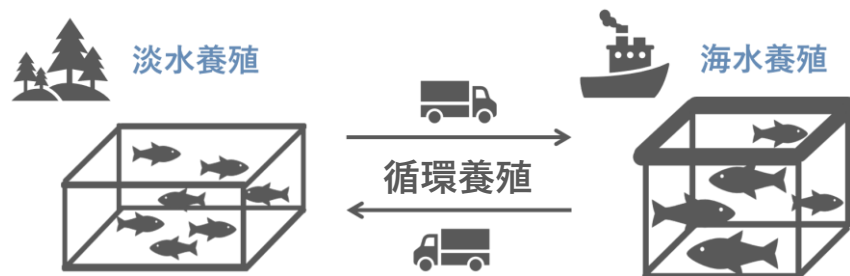
事業の3番柱が進行中



つきみくら

桜鱈 種苗

### 4 「SDGs」に貢献する循環養殖、ビジネス戦略が評価



持続的な魚肉、魚卵の生産  
地球温暖化に対応する育種  
地域資源を活用した漁業版“二毛作”

